

## 【事業名】 成果連動型特定保健指導標準モデルの構築

【代表組合】 石塚硝子健康保険組合

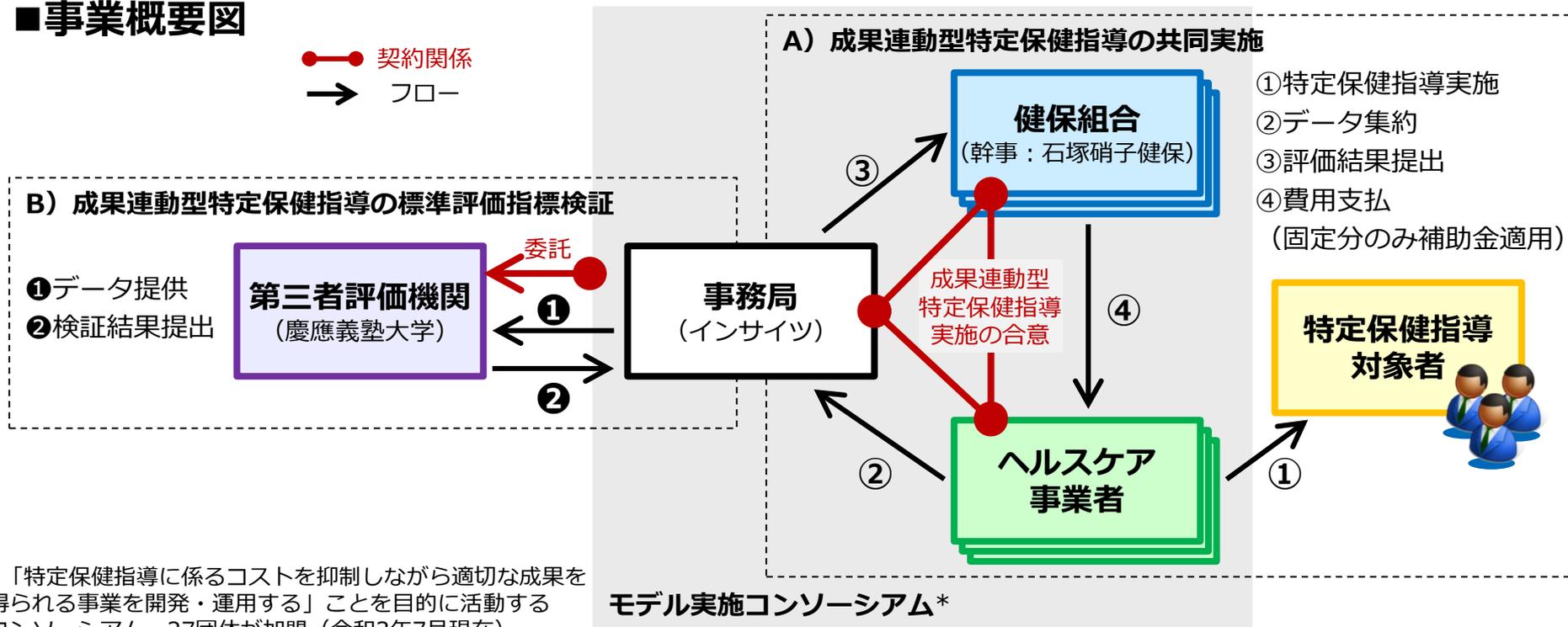
### 本事業が求められる背景、健保組合が抱える課題

- ✓ 生活習慣病の予防策として特定保健指導の重要性は特に高く、健保組合における費用負担や職員の業務負担も大きい。 **個別の介入方法の成果の良し悪しを直接的に金額換算することは容易ではない。**
- ✓ 平成30年度から制度化された「モデル実施」は、減量成果をもって特定保健指導が終了したとみなすため成果を重視した仕組みだが、 **介入による成果を適切に評価できるものではない。**
- ✓ また、次回健診結果を用いるといった **複数年に渡る成果評価は多くの健保組合では困難。**

本事業では、下記2業務を並行して行うことにより「**成果連動型特定保健指導標準モデル**」の構築に取り組む

### A) 成果連動型特定保健指導の**共同実施**    B) 成果連動型特定保健指導の**標準評価指標検証**

#### ■事業概要図



\*「特定保健指導に係るコストを抑制しながら適切な成果を得られる事業を開発・運用する」ことを目的に活動するコンソーシアム。27団体が加盟（令和3年7月現在）。

## ■本事業の実施方法と特長

### A) 共同実施

- 「モデル実施コンソーシアム」の会員である健保組合による共同事業方式（6健保参加）で取組む ⇒ **事業者がリスクをとりやすくなり、野心的な目標設定が可能**
- 複数の健保組合の成果を共通の指標で評価 ⇒ **横展開を見据えた標準モデルの構築が可能**

### B) 標準評価指標検証

- 中立的な立場である第三者評価機関（慶應義塾大学）が過去の事業データを客観的に分析 ⇒ **標準モデルの妥当性の検証、及び課題抽出を実施**

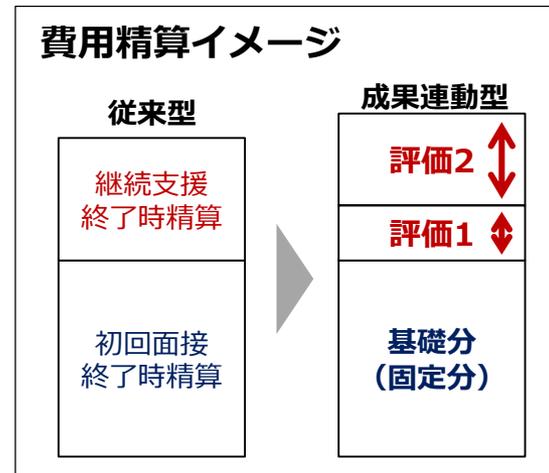
## ■本事業の成果評価の基本方針

評価1: 健診時体重から **▲2kg・▲2cmの達成**  
⇒ **健保メリット: 特定保健指導完了**

評価2: 介入によって実現した減量による  
**次回以降の特定保健指導コスト低減効果**  
⇒ **健保メリット: 将来コスト低減**

評価指標  
**▲2kg・▲2cm  
達成者数(名)**  
**初回面接時からの  
体重変化量(kg)**

※上記評価方法は、本事業における検証作業の結果に応じて変更する場合があります



## ■実施スケジュール

### A) 共同実施:

令和3年度モデル実施コンソーシアム事業スケジュール  
(右図、本事業はその一部に該当) に従う。

### B) 標準評価指標検証:

過去データ分析を実施した後、当年度データを用いた検証を実施する。

### 令和3年度モデル実施コンソーシアム事業スケジュール

